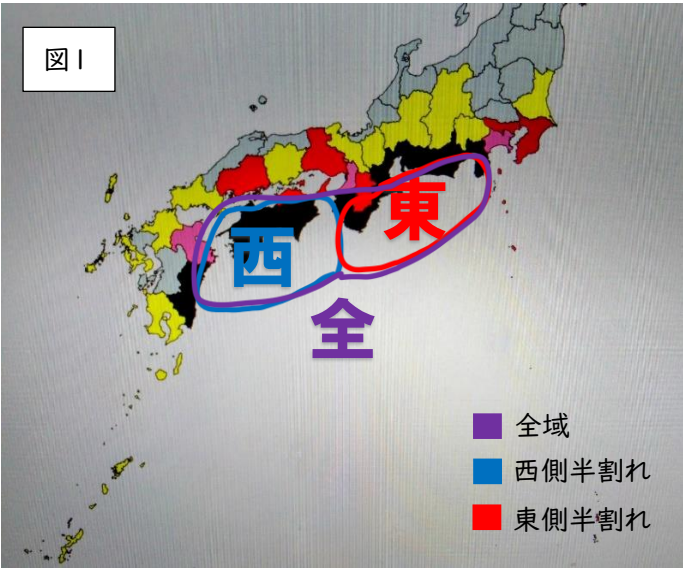


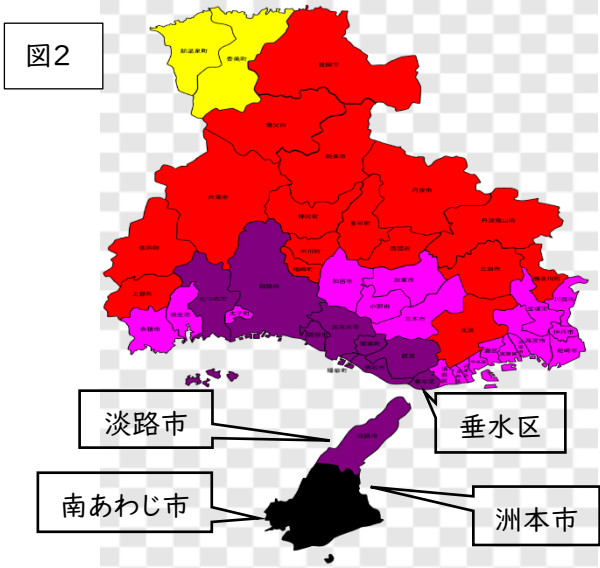
南海トラフ地震被害想定の見直し

政府の地震調査委員会は、今年1月15日に南海トラフ地震が今後30年以内に発生する確率を80%に引き上げました。さらに、政府の中央防災会議の作業部会は3月31日、南海トラフ地震の新たな被害想定（新想定）をまとめた報告書を公表しました。震度7が想定される自治体は149の市町村に上り、対策は進んだものの2012～13年の前回想定から微減にとどまりました。（図1）また、今回の想定は新たに南海トラフ地震想定域で西側と東側が時間差により発生する半割れケースや、災害関連死を加えたものに更新されました。（表1、表2）兵庫県は、洲本市と南あわじ市で震度7が、神戸市を含む南部沿岸部は震度6強が予想されています。（図2）

新想定では、これまでより死者数等が減りましたが、甚大な被害が予想されていることには変わりはありませんので、引き続き被害を大幅に減らす努力が必要です。私たちはいつ、どこにいても被害に遭う可能性があります。防災リュックの見直しはもちろんのこと、避難所の場所へ実際に足を運ぶなど日頃からの災害の備えを行い、有事に対応できるようにすることが大切です。来る有事に備えましょう。



南海トラフ地震最悪ケース（全割れ）の都道府県別死者数
黒色 10001人以上、桃色 3001人～10000人、
赤色 1001人～3000人、黄色 1000人以下、灰色 0人



南海トラフ地震最悪ケース（全割れ）の兵庫県各市町の最大震度
黒色 震度7、紫色 震度6強、桃色 震度6弱、
赤色 震度5強、黄色 震度5弱

表1:被害想定（全割れケース）

	規模（最大震度、マグニチュード）	最大想定死者数	最大想定災害関連死	全壊焼失棟数
旧想定	震度7、M9クラス	32万3000人	なし	235万棟
新想定	震度7、M9クラス	29万8000人	5万2000人	238万6000棟

表2:被害想定（半割れケース）

	規模（最大震度、マグニチュード）	最大想定死者数	全壊焼失棟数
西側	震度7、M8クラス	10万3000人	96万8000棟
東側	震度7、M8クラス	7万3000人	123万8000棟